

きのくにロボットフェス2016

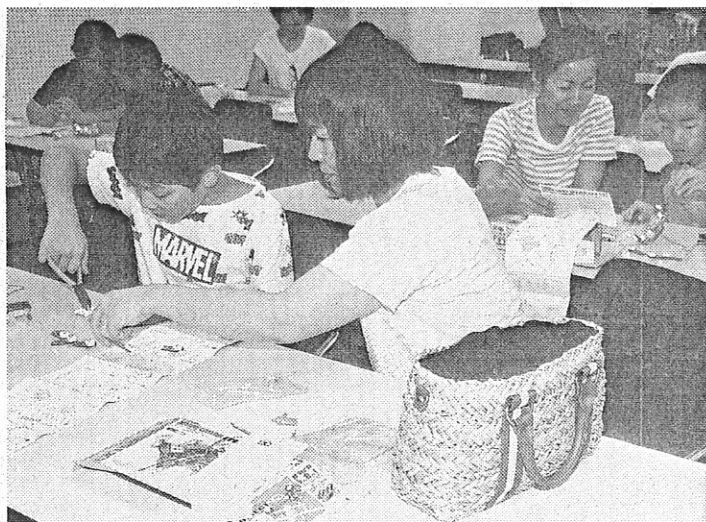
小中学生や保護者 選手権に向け講習

田辺市あけぼのの田辺工業高校で6日、きのくにロボットフェスティバル2016全日本小中学生ロボット選手権(実行委員会主催)に向けた講習会があった。小学4年生

以上の小中学生25人と保護者が受講し、選手権で使うロボットやコントローラーを組み立てた。

競技は小学生の部が、資材を持って坂を上る「活火山停止大作戦」、中学生の部がブロックを高く積み上げる「ブロックタワー建設作戦!」。県内を6ブロックに分けた地域ごとに講習会と県内予選がある。

この日は、田辺工業高校の教員が講師になり、参加者一人一人にロボットのキットを配布。小学生は保護者と一緒に、ペンチやドライバーを使ってロボットを組み立てた。ルールやロボットの動きも確かめた。中学生はコントローラーを作った。ロボットは各自、予選会までに改造する。田辺市稲成小学校5年生の長濱拓実君(11)は「ロボットを動かすのが好き。これから改造方法を考える。予選会に向けて頑張る」と話し、みなべ町南部中学校3年生の木村朋稔君(14)は「講習会ではブロックを持ち上げる方法を考えて。人と違った物を作



ロボットを組み立てる親子

(田辺市あけぼので)

りたい」と意気込みを語った。田辺・西牟婁地区予選会は10月29日、田辺工業高校の文化祭で開かれる。決勝大会は12月に御坊市蘭の市立体育館である。